

2025秦野観光写真コンクール

上位入賞作品 講評

【応募データ】応募人数 116名 応募総数 859点

審査員 写真家 山口 高志 氏

【総評】

本年度も応募下さった皆様より作画への厚い熱意の込められた多くの作品を頂き、幾度も作品を見比べ選考に努めた次第です。

厳しく凍った丹沢山稜と富士の麗姿^{れいし}。季節の花に彩られた秦野戸川公園。熱気が伝わる祭りと年中行事等、画面に引き込まれる様なインパクトを感じつつ幾度となく見返し、受賞作品の選定に努めたつもりです。

応募作品全般を通じ感じた印象は、画面全般^{めいあん}の明暗と色彩が均一で撮影地の対象への作画意図が明確に伝わる作品が多いと感じつつ選択に努めました。物足りなく感じたのは「農のある風景」への応募が少ない事。田植えや稲の成長過程や刈り取りの様子など、作物を収穫する喜びを引き出す好適なモチーフ^{こうてき}と思えます。是非チャレンジ願えれば幸甚と存じます^{こうじん}。

大 賞

「 山頂の夕景 」 高田 篤 様



何とも表現し難い^{ゆうび}優美さと幻想感に満ちた作品。

幾重にも折り重なる画面下部の尾根から湧くような^{もや}靄の色合
いと和らぎに満ちた^{ふゆうかん しせん}浮遊感に視線を奪われる。

遠くには黄金色を放射する^{せきしょう}夕照と富士山の半シルエットがバ
ランス良く対比され、この光景を^{めでて}愛でているような充足感に浸る
情景。

特 選

「 映り込む秋 」 山内 唯 様



物音一つせぬ震生湖畔に佇み、この光景と対峙するような
臨場を感じると共に、何とも表現できぬ穏やかで暖かみのある
大気に身を包まれる様な平安な心地となる情景。

特に、画面中心部の程良い陽射しに照り映えが効果を放ち、
日照の温みを盛っています。

特 選

「 青空に向かって 」 清野 正志 様



画面下方に配したサークル状のチューリップ花壇が画面の開放感を盛るとともに、芽吹き出した丹沢山稜への遠近と奥行きがリアルに描写され、春の温温した陽気感に満ちた映像。

丹沢の山稜上を駆け抜ける様な綿雲(積雲)も彩り豊かな花園の色彩を愛でつつ空を渡る様な動感を生んでいる。

特 選

「 夕景の中の時計台 」 小松 均 様



シルエットの丹沢山稜の空の流麗な夕映えに呼応するような
「まほろば大橋」のからくり時計塔。背後のシルエットと化した丹
沢山稜。

その上空を赤赤と染める筋状雲(带状の雲)の流動が灯とも
し頃の詩情を盛るとともに、家路への歩みが知らず知らず速ま
る様な寂寥、何とも人恋しさを抱く黄昏時の光景。

夕映えが闇に溶けるまで眺めていたくなる情景です。

特 選

「 青々と育つ 」 岩本 義清 様

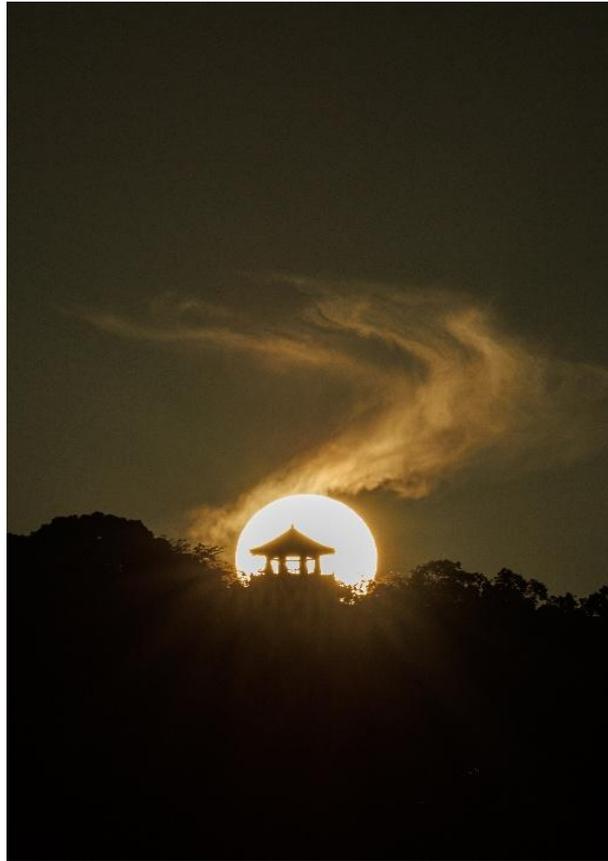


^{あさもや}朝靄の立つ丘陵の傾斜面に張りのある葉を密に茂らせる冬野菜。その濃い緑の葉に^{はつらつ}澆刺とした活力と言いますか、早朝の冷え込みを跳ね飛ばすかのような勢いを感じるショット。

^{もや}靄の彼方の陽光の明るみを受ける青葉の照りに生育感が宿る印象を覚える。

特 選

「 光を背負う 」 金子 健太 様



2025 年秋のスーパームーン(通常より大きく明るく見える満月)と重ねた「弘法山公園 公園展望台」のシルエット。その形状から闇空に浮かぶ城郭の尖塔が輝きを放つように映る。

さらに、満月の頂部を巻くように闇に伸びる尾流雲(竜の尾の様な)が恰も闇空に飛び去るような流動を生む。